

“居場所・行き場所・流れ場所”のある暮らし

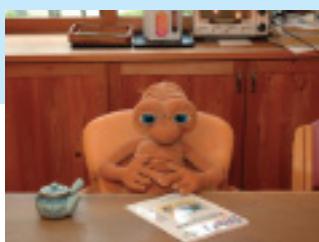
洗練されたデザインが心地いい「せんねん村」（愛知県西尾市）

Photo by Hiroyuki Matsumoto



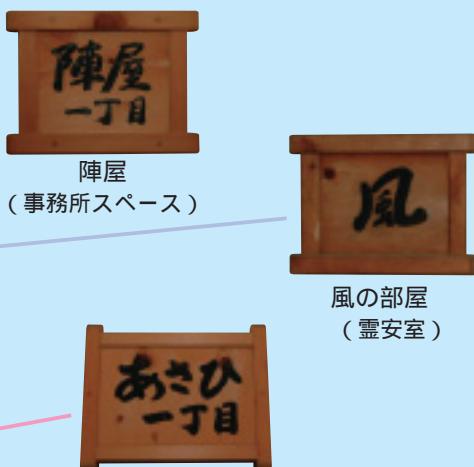
特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービス、地域包括支援センター等の施設等を運営する社会福祉法人きらら会では、その福祉施設群を1万平米の敷地に配し、「せんねん村」をつくった。機能性や建築の質、中身と器の調和が評価され、平成14年医療福祉建築賞も受賞。「せんねん村」を取材した。

多目的スペース「八角堂」でくつろぐ村人・高須時彦さん（71歳）
「気楽に暮らせて住むには一番いいよ。」

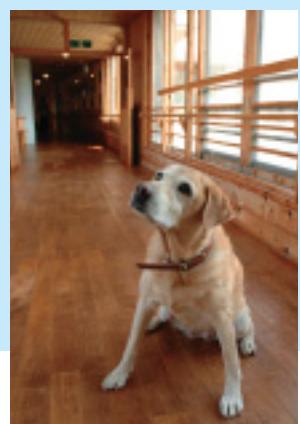


村長の留守はE-T君が
守っている!?

施設長の中澤明子さんに当時の話を聞くと、「まず設計・施工者のコンペを行い、内部に審査委員会をつくり、職員の意見を取り入れながらつくつていった。地域住民の方も遊びに来られるような開放的なスペースにしたかった」と述べる。コンセプトは、居場所・行き場所・隠れ場所である。



特養ホーム せんねん村
あさひ1~2丁目
(1丁目は1階、2丁目は2階)



「せんねん村」の看犬・ラブラドール・レトリバーの中澤ジェリーちゃん。ジェリーは村じゅうどこにでも出かけて行って、村人たちを癒してくれる。

愛知県西尾市の田園地帯に平

成13年1月に開設した「せんねん村」は、翌14年に医療福祉建

築賞を受賞。選評をみてみると、「特別養護老人ホーム、ケアハウ

ス、デイサービスなどの複合施設が、田園の集落に溶け込んだように集合した構成が特徴的

であり、ゆつたりと「時間が流れれる場所」をめざした運営理念によく適っている」としたうえで、多様な居場所が用意されていて、まさに村に住んでいるような感じと評価。さらに、運営者が明快なケア理念と環境のあり方を提示し、それに応えた設計者と施行者が多大な労力と時間を使やした共同作業の結晶とのことである。



子どもたちが遊びに来たときの遊び場「こどものいえ」には、つり橋が架けられていた。社会福祉法人きらら会では、別地区に中野郷保育園を運営しており、年に何度か交流会も行っている。



特養ホーム せんねん村
ゆうひ1~2丁目



こどものいえ



ケアハウス せんねん村
うみ1~3丁目

デイサービス
せんねん村



多目的スペース「八角堂」の外観は、文字通り八角形のシンボル塔だ。外から回っても八角堂に行くことができるし、八角堂には村長・中澤明子さんの執務スペースも解放されていて、気軽に話すことができる。



特養ホーム せんねん村
そら1~2丁目



「せんねん村」MAP

スタッフのいる陣屋（事務所スペース）を通らなくても、村人はこの「石の小径」を抜けて、自分の部屋まで行くことができる。季節の花を愛でながら、会話にも花が咲く。





2階部分のベランダは回廊になっており、中庭の周りをひと回りすることができる。

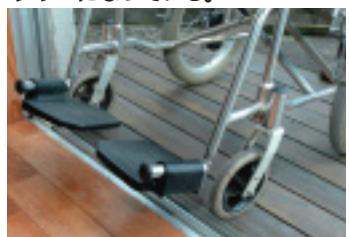


入浴についてこれまで、安全を考慮しながら村人の気持ちやスタッフの便宜等考えた。その末にたどり着いたのが入浴リフトの導入である。スタッフからは、1対1でゆっくり会話をしながら入っていただけるのでよいコミュニケーションを図れるとの感想も。



インストラクターの支援もあり、村人に使い勝手のいい車いすを推薦し、購入していただいている。「こういう車いすを使われると、村人の笑顔が違いますよね」と、村じゅうを案内してくれた近藤さん。

施設内はすべてのエリアがバリアフリーになっている。



せんねん村には特養ホーム80人、ショートステイ20人、ケアハウス15人の村人が暮らす。村人の快適のため、中澤さんは、スタッフから上がつてくる事故報告書を「宝物」と位置づけ、よりよい介護・介助のために改善策を追求する。「物事を推し進めるとき、スタッフには、あなたはどう思つのか、どうしたいのか、と問う。自ら考えて行動することが大事」と強調する。一人ひとりのステップアップが村の運営を支えるからだ。

中澤さんは村人に村長と呼ばれ、慕われている。月に2回、八角堂に開業する「居酒屋木曜日」の常連の高須時彦さん（71歳）は、「入浴の後に八角堂に行くと村長がビールでも飲んでいく？」と気軽に声をかけてくれるのがうれしくてねえ」と相好を崩す。開放的な中庭に面した八角堂には、誰もがいつでも訪れることができる「行き場所」である。開設当時から暮らす高須さんの笑顔が、村の居心地を代弁している。

せんねん村には特養ホーム80人、ショートステイ20人、ケアハウス15人の村人が暮らす。村人の快適のため、中澤さんは、スタッフから上がつてくる事故報告書を「宝物」と位置づけ、よりよい介護・介助のために改善策を追求する。「物事を推し進めるとき、スタッフには、あなたはどう思つのか、どうしたいのか、と問う。自ら考えて行動することが大事」と強調する。一人ひとりのステップアップが村の運営を支えるからだ。



「せんねん村」施設長（村長）の中澤明子さん。以前は社交ダンスやゴルフが趣味だったそうで根っからのおしゃれ好き。爪切りでの出血事例に心を痛め、行きつけのネイルサロンからネイリストを呼び、ネイルケアの研修も開くという。「立ち位置が重要なよね」。



介護部係長の近藤若人さん（介護福祉士・介護支援専門員）

「せんねん村」には看護・介護実習でも多くの学生が訪れる。講師は、看護部係長・看護師の山田江己子さんが担当。



設計段階から建物の要にあった「風の部屋」。人はいつかは風になって天国に行く、ということで、特養ホームのどこからでもお祈りできるようになっている。



写真左から美容室「べっぴんしゃん」、食堂および多目的ルーム、「子どものいえ」内のアスレチックルーム。中澤施設長は、「暮らしのなかで高齢者が浮き上がらないように、三河人が安らげる場所を考えるとき、木材と土が重要」などと主張する。施設を抜ける風も気持ちいい。

